翔子と愛犬ジョーとの交尾生活４

ｙｕｋｉ

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

【作品タイトル】
翔子と愛犬ジョーとの交尾生活４

【Ｎコード】
Ｎ７２１５ＪＲ

【作者名】
ｙｕｋｉ

【あらすじ】
翔子は、クリトリス包皮の全切除手術を決意するが、女医にクリトリスリングを嵌めている、恥ずかしい痴態を見られしまう。

ジョーと翔子の交尾生活5、女医に見られて。（前書き）

クリトリス包皮切除手術を決意した翔子だが、女医に恥ずかしい所を全て見られてしまう。

ジョーと翔子の交尾生活5、女医に見られて。

翌朝、翔子は母に連れられて婦人科クリニックを訪れた。そこは、女医さんが経営する清潔なクリニックだった。
翔子達が訪れた時、既に5人の患者さんが待合室で診察を待ってお り、全員2、30代の若い女性ばかりだった。
恐らく、産科の受診に来ている女性ばかりで、幾ら母が同伴とはい え、翔子のような幼い少女がここに来ているのは、さすがに場違い のような気がした。
母が受付を済ませると、予約を取っていたのですぐに処置室にとお された。
5分ほど待たされ後、翔子と母は診察室に通された。そこには、感 じの良さそうな女医さんが待っていた。女医さんより診察と手術の 説明が始まった。
„翔子ちゃん、え～と、今日、両脇の下と女性器周辺と会陰及び肛 門周辺の医療ニードル脱毛とクリトリス包皮切除で間違い無いわね。
„と女医が聞いてきたので、
翔子ははっきりと
„はい、間違い有りません„と答えた。
更に女医は、„ニードル脱毛は、針を毛根に刺して電気で毛根を破 壊するので少し痛いかもしれないわね。それに永久に毛が生えて来 なくなるけど良いの？„
翔子は„大丈夫です。„と答えた。
„それから、クリトリス包皮切除の件だけど、3つの方法があって、 1つ目は完全包茎の女性が包皮の頭の部分を少し切除して、ｓｅｘ の時クリトリスが半分位露出する方法と、2番目は包皮をクリトリ スの中くらい迄切除して、ｓｅｘの時クリトリスが完全に露出する 方法と、最後は包皮を根元から完全に切除する方法なんだけど、普

通は1番目か2番目なんだけど。„と女医は翔子に聞いて来た。

翔子は全く迷よう事は無く、„完全切除でお願いします。„と答えた。

女医は、„でもね~、翔子ちゃん、完全に切除しちゃうとパンティが擦れても感じちゃうのよ。足を閉じてもクリトリスが飛び出して隠す事が出来なくなるのよ。„

すると翔子は、„大丈夫です。全部切除して下さい。慣れていますから。„と、答えた。

女医は、„それじゃ、翔子ちゃんの今のクリトリスの状態を診察させてね。„と言われた。

翔子はパンティを脱いで診察台に上がり、足を大きく開いた時、クリトリスリングを外ずし忘れた事に気付いた。クリトリスリングを女医に見られてしまった。

女医は一瞬驚いたような表情をしたが、“それでは、クリトリスのサイズを測らせてね。う~ん、翔子ちゃん位の女の子と比べても凄く充血して大きく勃起してるわね、それに膣分泌液も多いわね。“と言いながら、翔子のオメコから溢れ出ている嫌らしい粘液をガーゼで拭き取りながら翔子のクリトリスのサイズを測った。

それから女医は翔子に、„このクリニックでは女性器の美容整形もしているの。それでね、簡単な手術でクリトリスリングや、乳首リングも皮膚の下に埋め込んだり取り外したり出来て、他の人が見ても分からない様に出来るの。小さなダイヤルが出ているから、ここで自分で締め付けたり緩めたり出来るの。最新型だとダイヤルにプラグが付いていて、締め付け具合を自動で調整出来るし、５段階の電気でクリトリスや乳首を刺激する事も出来るんだけど、一緒に取り付けますか？„と聞いて来た。

母はその事については、特に何も言わなかったので、

翔子は直ぐに、最新型を取り付けて下さいっと女医に言った。

手術は午前中にニードル脱毛をして、午後からクリトリス包皮の全切除とクリトリスリングと乳首リングを埋め込む事になった。

処置室で待たされている間に、看護士達のひそひそ話が聞こえて来た。
”今日来てる女の子って未だ〇〇歳だそうよ。それなのに、クリトリス包皮全部切除するんですて。„
”そうなの？それだとパンツに擦れても感じちゃうし、いつも膣が濡れた状態になるし、丸見えだから温泉にも行けなくなるよ。„
”それがさ～、あそこの家大きな犬飼ってるじゃない。
そのワンちゃんと瘤迄入れて毎日エッチしているそうよ。„
”え～，瘤迄入れると抜けなくなるよ。„
”そうなのよ、一度瘤を膣に嵌められると４０～５０分は嵌められっ放しだそうよ。„
”この前、あそこの毛はツルツルに剃って、クリトリスと乳首が異常に充血した素っ裸の女の子と大きな犬が夜の公園で、女の子はお尻から膣に大きな瘤を嵌められて、お尻で結合したまま明るい所にワンちゃんに引きずり出されてエッチしていたと言う噂はどうやらあの女の子見たいよ。„
”そうなんだ、それだと今日手術する理由が分かるね。„
”それにワンちゃんが発情したら、いつでも、何処でも、人に見られていてもエッチするんですて。„
”え～、あんな女の子が人に見られながら、ワンちゃんとエッチするなんて恥ずかしく無いのかな？
”だって、ワンちゃんは人に見られてても関係く外でエッチするでしょ？瘤迄嵌めて。„
と言いながら、クスクスっと笑った。
翔子はそれを聞いていて、全部本当の事だと思った。
私がジョーの巨大チンポを瘤迄入れてエッチしていることは、町の人に全部知られているのだ。
そう考えた時妙に子宮が疼き、嫌らしい粘液がオメコから溢れ出た。
全てが終わった後で、翔子は車の中でもじもじし始めた。

すると翔子は真弓に„お母さん、何か変なの„

すると真弓は„翔子ちゃん、何が変なの？„と聞き返した。

すると翔子はもじもじしながら、„あの、お尻の穴が少し変なの。お母さんにお尻の穴に指入れられた時、オメコで行ったのか、お尻の穴で行ったのか良く分からなかったけど、あれからずっとお尻の穴の疼きが止まら無くて、オメコの疼きと一緒になると、大きな波が来て授業中でも物凄く行っちゃうの。行くとこ皆に見られて凄く恥ずかしい。。。„

真弓は少し考えてから„それはねえ、翔子ちゃんがお尻の穴でも行けたって事よ。1回目でお尻の穴で行くの凄く難しいんだけど、翔子ちゃんはオメコとお尻の穴の両方で絶頂に達したの。お尻の穴で行った女の子はずっとその疼きが続くの。軽い疼きが大きな波になるとお尻の穴の方が大きな快感が襲って来るの。

すると翔子は„大きな快感が襲って来たらどうすれば良いの？„と聞いてきたので、

真弓は„その時は思いっきり行きなさい。翔子ちゃんは誰にも出来ない、お尻の穴で絶頂に達する快感を手に入れたんだから。„

翔子は何となく納得したみたいだが„皆に見られながら何度も行くの恥ずかし。。。オシッコも出ちゃうよ。。„

真弓は„皆が見てる前で行けるなんて素晴らしい事よ、それにオシッコが出るのは、ちゃんと行った証拠だからね、女の子は行くとオシッコが出て当たり前なのよ„

と答えた。

翔子は„ね、ねえお母さん、お、お尻の穴が疼いて止められないの。。それにさっきからオ、オメコも疼き出したの。どうしよ、もう行きそなの。お母さん、行っても良い？、お母さん、ああ～„と泣き声になったかと思ったら、直ぐに„い、行く、行きます！„と言いながら、足をピンと伸ばし身体は激しく痙攣させて、凄まじい絶頂を迎えた。

その波は何度も何度も翔子を襲い、痙攣を繰り返した。翔子はパン

ティの上からおびただしいオシッコを漏らし、そのまま気を失ってしまった。

気が付くと翔子は自分のベットに寝かされていた。

パンティも新しいものに変えられていた。

真弓は„ねえ、翔子ちゃん、学校でもあんな凄い行き方するの？„

と聞かれたので。翔子は恥ずかしそうに下を向きながら、„そうみたいなの、私は気絶していて殆ど記憶が無いんだけど、気が付くと、いつも体育のジャージを履かされて、保健室に寝かされているの。由美ちゃんの話だと、オ、オシッコも凄く漏らしているって、いつも男子も手伝っているけど、本当の目的は、私のパンティを脱がせてオメコを見たり、中にはオメコを大きく広げて尿道やオメコの穴を鑑賞したり、指を入れる男の子もいるって言ってた。„

真弓は„それは、翔子ちゃんにとって嫌な事なの？„

と翔子に聞いたら、

翔子は„全然嫌じゃ無いよ。反対に男の子が私のオメコに興味を持ってくれるのは嬉しいよ。もっとオメコを広げて、尿道とかオメコの穴を見て欲しいし、尿道に綿棒か何かを入れて尿道の中を調べて欲しいの。今クリトリスの包皮が無いから、弄ったり舐めたりして欲しいし、行った後の淫らに勃起しているクリトリスのサイズも測って欲しいの。気絶している間にそんな事されていると思うと又オメコとお尻の穴が同時に疼いてくるよ。„

それを聞いた真弓は„なんだ～、結局、翔子ちゃんは皆に行くところや、オメコを見られて喜んでいるじゃないの？„と言うと、翔子も恥ずかしそうに„そうなの、全然嫌じゃ無いの。もっともっと翔子の嫌らしい粘液を垂れ流してパックリ口を開けているオメコに指を入れて欲しいし、剥き出しのクリトリスを弄って欲しいし、そ、それにお尻の穴にも指を入れてかき混ぜて欲しいの。それと乳首リングとクリトリスリングのリモコンだけど、1個はお母さんに、もう1個は由美ちゃんに渡そうと思うの。オメコとお尻の穴が同時に疼いて自分ではどうしようも無くなった時、由美ちゃんに1番強い

電流のスイッチを入れて貰えば、直ぐに絶頂に達する事が出来るでしょ。„

と言いながら、真弓にもリモコンの1個を渡した。

真弓は„もう、エッチな子なんだから。でもリモコンのスイッチを押して欲しい時は、必ず知らせてね。„と言うと、翔子も„分かった。行く時は行くと言ってお母さんに知らせるから、その時にリモコンのスイッチ入れてね。„

„分かったわ、でも由美ちゃんにはどの様にして知らせるつもり？„

翔子は、„由美ちゃんの耳元で小声で、行きそうだからスイッチ入れてって言うの。由美ちゃんにはもう知らせてあるの。由美ちゃんも、いいよ、って言ってた。„

真弓は„翔子ちゃん、クリトリスにガーゼ交換しようか？„と、翔子に言った。

翔子も„は～い„と答えた。

翔子のパンティを足から抜き取り、大きく足を広げさせた。

ガーゼを取り除くと、真弓の目に驚愕の光景が飛び込んで来た。

な、なんと、クリトリスの包皮は根元から完全に切除されているので、淫らに赤く勃起したクリトリスは余すところ無く、その嫌らしい全容を晒していた。

真弓は翔子に„翔子ちゃん、少し触っても良い？„と聞いた。

翔子も直ぐさまに„いいよ。„と答えた。

真弓は翔子の股の間に入り、両足を左右に大きく開かせ、腰の下にクッションを入れて高々と持ち上げる様にした。赤みを帯びたピンク色のクリトリスは勃起して天井に向けて大きくせせり出し、オメコは大きく口を開けて嫌らしい粘液を垂れ流していた。

さすがに翔子は„お、お母さん、恥ずかし。。„と言った。

真弓はそれには答えず、人差し指と親指で更にオメコの口を大きく開き、クリトリスの全容を剥き出しにしたかと思うと、そのねっとりとした舌で翔子のクリトリスを口に含んだ。そして真弓は更にその下の翔子の尿道口をとらえ、舌の先で愛撫し尿道口に侵入させた。

翔子は初めての感覚に „お、お母さん、駄目、オシッコでちゃうよ。そ、それに、オメコとお尻の穴が同時に疼いて来たよ。„と言うと、真弓は „良いのよ、オシッコ出しても。行く時は知らせてちょうだい。リモコンのスイッチ入れるから。„と言いながら、交互にクリトリスと尿道口の愛撫を繰り返した。すると翔子は
„お、お母さん、も、もう駄目みたい。行きそうなの。。。„
すると真弓は „我慢しなくて良いのよ。思いっきり行きなさい。„と言い、翔子のクリトリスを思いっきり吸い上げた瞬間、翔子は頭を反らし、自分から腰を高々と持ち上げて、ガクガクと痙攣したかと思うと、
„お、お母さん、駄目、行く、行きます!! „
と大きな声をあげたかと思うと、海老反りになって激しく絶頂に達した。
それを見た真弓も、電流を１番 „強 „にして、リモコンのスイッチを入れたの。
翔子は意識を失い、数分単位で痙攣を繰り返した。
クリトリスと乳首に電流が流れているせいか、ピクピクと何度も、腰を持ち上げる動作や胸を持ち上げる動作を繰り返した。
真弓は試しに電流を強くしたり、弱くしたりして見たが、その強さに合わせて、翔子の身体が跳ね上がる強さも変わった。
真弓は翔子の両足を大きく開いたまま両肩に担ぎ、ねっとりとしたオメコ汁で柔らかく無防備になったお尻の穴めがけて、人差し指と中指２本をずぶりと根元迄一気に沈め、リモコンの電流を最強にした。
その瞬間、意識の無い翔子の身体は海老反りの様に跳ね上がり、お尻の穴は真弓の２本の指を、ちぎれんばかりに食い締めた。„う～ん „と意識の無い翔子は白目を剥いて涎を垂れ流した。
真弓は、翔子のお尻の穴に沈めた２本の指を前後に動かしながら、オメコとお尻の穴が薄い皮１枚を隔てて、それぞれが連動する様に、大きく収縮を繰り返すのが分かった。

電流に合わせて、痙攣していた翔子の身体がひと際大きく跳ね上がったと思ったら、ねっとりとした翔子のお尻の穴の粘膜は、真弓の2本の指にしっとりと絡み付き、激しく食い締めた。翔子は今迄に味わった事の無い絶頂に達した。

真弓は意識の無い翔子の口唇に口唇を合わせ、ねっとりと舌を絡ませ、翔子の舌を吸い出した。

翔子も意識が無いまま、吸い返していた。

真弓はリモコンのスイッチを切ったが、翔子の痙攣は止まらず、翔子のお尻の穴に沈めた2本の指は、絡み付いた粘膜が離そうとはせず、収縮を繰り返していた。

真弓は、„お尻の穴で行く事を覚えた女の子は、これからはオメコの疼きとお尻の穴の疼きの両方に耐えて行かなければ行けないのよ。

„と言った。

ようやく翔子は気を取り戻した。

„お母さん、私いったい。。。„

真弓は、„翔子ちゃん、凄かったわよ。オメコとお尻の穴の両方で行ったのよ。お尻の穴でも完全に行ける様になったのよ。„

と言いながら、真弓の2本の指は、未だ翔子のお尻の穴に深々と根元迄突き刺さったままである。

真弓は、„ほら、翔子ちゃんのお尻の穴の粘膜が、お母さんの指にねっとりと絡み付いて離そうとしないのよ。„

母に、お尻の穴に指を挿入されたままの状態であることに気付いた翔子は、

„お、お母さん、恥ずかしい。。でも何だか気持ち良い。ゆ、指を動かして見て、お、お尻の穴が又疼いてきたの、お、お母さん、お願い、むちゃくちゃにお尻の穴掻き回して、指3本入れても大丈夫だから、ああ、さっき行ったばかりなのに、又行きそうなの„

真弓は„翔子ちゃん、分かったわ、指3本入れるね。又リモコンのスイッチも入れて上げるから。„と言い、薬指も追加して、翔子のお尻の穴に真弓の3本の指をズボッと根元迄突き刺した。翔子のお

尻の穴は楽々3本の指を飲み込み、ねっとりとした粘膜が絡み付いてきた。最初は緩やかな収縮だったが、だんだん早くなり、更に粘膜が3本の指を強く食い締めた時、
翔子は„お、お母さん、又行くよ、行く、行きます!!„
と、絶頂に達した時、真弓はリモコンのスイッチを入れた。